

<設計コンセプト>

■歴史：今あるものを結んで活かす新たな2つの「街道」

- ・かつて、旧薩摩街道、旧三池街道沿いの宿場町だったみやまに、新たな2つの「街道」をつくる。
- ・市役所と図書館を「**交流の街道**」により結び、施設間の連携を図るとともに、奥まった敷地に活動風景を連続させることで人を引込み、日常的な賑わいを創出する。
- ・瀬高中央公園と矢部川を「**健康の街道**」により結び、まち全体を健康増進の空間として活用する。

■風土：既存樹木の保存とみやまの風土感じる「くすのき広場」

- ・敷地に現存する樹木を極力残し、施設のシンボルとし、樹木の周りに市民の憩い空間をつくる。
- ・既存くすのきが見守る「くすのき広場」を交流の街道に囲まれるように設ける。

■共創：常に使われ続ける市民センター

- ・ホールの側面を遮音の移動間仕切で開放することでロビーや外部と一体的に利用できる計画とする。
- ・劇場・体育利用に留まらず「まるごとみやま秋穫祭」などの大規模イベントを含めた様々な利用により、いつも誰かが新しい使い方を発見できる多目的ホールとする。

